

三重大学血液内科 学術研究に関するお知らせ

(初版 平成 28 年 11 月 1 日作成)

「B1 細胞の起源についての検討」に関するお知らせ

末梢血中のほとんどの B リンパ球は、様々な異物を認識することで身につく獲得免疫と呼ばれる免疫系に関わっていますが、先天的に備わっている自然免疫に関与する B リンパ球も少数ながら存在するとされています。この自然免疫に関係する B リンパ球を B1 細胞といい、マウスの研究からその機能が解明されつつあります。B1 細胞は自己の成分にも反応する抗体を産生するため、自己免疫疾患である膠原病との関連を指摘されていますが、ヒトにおいてはこの B1 細胞の存在や起源について不明な点が多いとされています。遺伝子は、血液細胞を含む多くの細胞においては核の中にあり細胞を形作ったり機能を発揮させるための設計書のような役割をしています。骨髄増殖性腫瘍(MPN)や発作性夜間血色素尿症(PNH)の患者さんの血液細胞からは、病気ごとに特徴的な「遺伝子の傷」が発見されています。この傷は病気の血液細胞のみに見られるものでありその他の細胞にはみられず遺伝もしません。

本研究では、この「遺伝子の傷」を利用して、B1 細胞の起源を調べることを計画しています。三重大学バイオバンクあるいは三重大学血液・腫瘍内科に保存されている MPN あるいは PNH の患者さんの骨髄液や血液から B1 細胞を採取し、採取した細胞に「遺伝子の傷」があるかどうかを調べることで、B1 細胞の起源を調べたいと考えています。

研究の内容、方法について

この研究は平成元年 1 月から平成 32 年 12 月末日までに MPN あるいは PNH と診断された患者さんを対象としています。セルソーターと呼ばれる機器を用いて B1 細胞を含む B 細胞などの分画を選別・採取します。各分画ごとに MPN や PNH に特徴的な「遺伝子の傷」があるかどうかを調べます。試料として、診断目的の残余分あるいはバイオバンクに保存されているものを使用させていただきますので、新たな費用負担や採血検査などの身体的負担は一切ありません。本研究の成果は学会や学術論文として公表されますが、個人情報保護されます。ただし、患者さんの希望があれば、結果公表後にお伝えすることは可能です。

この研究の内容および方法は三重大学医学部倫理委員会での厳正な審査の結果承認が得られ、実施について当学医学系研究科長の承認を得ています。ご自分のデータをこの研究に使用してほしくないとお考えの患者さんは、下記の連絡先までご連絡をお願い申し上げます。データの使用にあたっては、患者さんおよびご家族に診療上の不利益などが一切生じないよう、以下のことを厳守いたします。

- ・医学研究以外には使用しない
- ・患者さんおよびご家族の氏名は公表しない。個人情報厳密に守秘する
- ・研究結果は学会、研究会、学術論文以外では発表しない
- ・いつでも同意は撤回可能であり、それによって患者さんに不利益を及ぼすことはない

この研究の研究代表者

三重大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学 片山 直之

連絡先

三重大学医学部附属病院血液内科 三輪 啓志

住所 〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

電話 059-231-5016 FAX 059-231-5200

研究参加施設

三重大学医学部附属病院

市立四日市病院

鈴鹿中央総合病院

鈴鹿回生病院

遠山病院

松阪中央総合病院

済生会松阪総合病院

市立伊勢総合病院

伊勢赤十字病院